

## 2. 研究の詳細

|                  |                                |                  |  |
|------------------|--------------------------------|------------------|--|
| プロジェクト名          | 放課後児童クラブにおける食と静養のための空間整備に関する研究 |                  |  |
| プロジェクト期間         | 平成24年度（平成23年度～平成24年度）          |                  |  |
| 申請代表者<br>(所属講座等) | 鈴木 佐代<br>(家政教育講座)              | 共同研究者<br>(所属講座等) | 岡俊江（九州女子大学家政学部人間生活学科）<br>豊増美喜（大分大学大学院工学研究科）<br>秋武由子（福岡教育大学非常勤講師） |

### 1. 研究の目的

放課後児童クラブ（いわゆる学童保育所）は、主に保護者が労働等により昼間家庭にいない児童が放課後や土曜日・長期休業日を過ごす生活の場である。共働き家庭の増加により需要が高まるとともに、学校5日制と開設時間の延長により児童が放課後児童クラブで過ごす時間は学校で過ごす時間より長くなっている。放課後児童クラブの量的、質的向上が望まれる。

放課後児童クラブは、利用する児童にとっては家庭に代わる「生活の場」であるが、「生活の場」として欠かさない専用の台所や静養スペース（体調が悪いときなどに休息する場所）がない例もみられる。そこで本研究では、児童の生活環境の質的向上を旨として、放課後児童クラブの食空間（台所、昼食・おやつ場所）および静養スペースの実態を調査し、求められる空間条件について検討することを目的とする。

平成23年度は、北九州市内の放課後児童クラブ9施設を対象に、現地観察調査および指導員対象ヒアリング調査を実施し、①提供されるおやつと食べる空間の実態、②体調が悪い児童への対応と静養スペースの使い方や備品の現状を明らかにした。

平成24年度は、①昼食時と午後の休息時間における空間の使い方と室内環境（温度、騒音レベル等）を調査し、食べる空間と休息する空間にふさわしい室内環境のあり方を検討した。

### 2. 研究の内容および方法・進め方

放課後児童クラブの食と静養のための空間とその環境について、平成24年度は、以下の調査・分析を行い、最後に整備方法を検討した。

#### (1) 夏季の室内環境（温度、騒音レベル）の測定（平成24年8月実施）

昼食時と午後の休息時間について、冷房使用状況の把握、室内温度と騒音レベルの測定を行った。この調査は、暑さや滞在時間の長さから児童が疲れやすく、また暑さのため屋外遊びが制限され、室内で過ごす時間が長い夏季（夏休み中）に実施した。

#### (2) 指導員対象ヒアリング調査（平成24年8月実施）

昼食および午後の休息とその環境に対する指導員の考え、食事中的教育的指導、静けさや落ち着きのある空間を確保するための取り組み等についてヒアリング調査を行った。

\* (1) および (2) の調査は、平成23年度調査対象9施設の中から4施設（A, E, F, G）を選定し実施した（表1）。

#### (3) 先進事例の調査（平成25年3月実施）

今後需要が高まるとされる駅直結の施設（東京都）について室内環境の事例調査を行った。

#### (4) 食空間および静養スペースに求められる空間・設備条件の検討（平成24年9月～平成25年4月）

(1) および (2) の調査結果をもとに、昼食時と午後の休息時間における空間の使い方・室内環境を明らかにし、放課後児童クラブに求められる空間条件について検討した。

| クラブ名 | 住所<br>(北九州市) | 施設使用開始時期 | 登録児童数 | 構造・階数   | 延べ面積<br>(㎡) | 設置場所   | 施設形態 | 分割* |
|------|--------------|----------|-------|---------|-------------|--------|------|-----|
| A    | 小倉北区         | 2009.9   | 62人   | 鉄骨造・2階建 | 160.6       | 小学校敷地内 | 専用施設 | -   |
| B    | 小倉南区         | 2009.4   | 16人   | 鉄骨造・2階建 | 120.0       | 小学校敷地内 | 専用施設 | -   |
| C    | 小倉南区         | 2009.4   | 53人   | 鉄骨造・2階建 | 160.6       | 小学校敷地内 | 専用施設 | 有   |
| D    | 若松区          | 2010.4   | 46人   | 鉄骨造・平屋建 | 164.0       | 小学校敷地内 | 専用施設 | 有   |
| E    | 八幡東区         | 2010.4   | 48人   | 木造・平屋建  | 92.8        | 小学校敷地内 | 専用施設 | -   |
| F    | 八幡東区         | 2008     | 15人   | 木造・平屋建  | 73.1        | 小学校敷地内 | 専用施設 | -   |
| G    | 八幡東区         | 2010.4   | 81人   | 木造・平屋建  | 137.8       | 小学校隣接  | 専用施設 | 有   |
| H    | 八幡西区         | 2009.11  | 62人   | 木造・平屋建  | 119.2       | 小学校敷地内 | 専用施設 | 有   |
| I    | 八幡西区         | 2010.4   | 61人   | 鉄骨造・2階建 | 237.5       | 小学校敷地内 | 専用施設 | -   |

\*「分割」とは、適正な人数規模にするため、71人以上の大規模クラブを複数に分けること

### 3. 実施体制

本研究を遂行するために、以下の研究協力者から専門知識の提供および調査協力を得た。

- ・九州女子大学家政学部人間生活学科教授 岡俊江（建築平面計画）
- ・大分大学大学院工学研究科客員研究員 豊増美喜（音環境）
- ・福岡教育大学非常勤講師 秋武由子（調理・食行動）

### 4. 平成24年度実施による研究成果

#### (1) 放課後児童クラブにおける昼食時の食事環境

放課後児童クラブでは、昼食の時間は、食事を楽しむとともに食事のマナーや後片付けの仕方、自主性を身につける時間ととらえられている。

昼食は一斉活動として行われ、全員で「いただきます」の挨拶をしてから食べ始める。対象施設の場合、食べ始めから全員が食べ終わるまでの時間は、23分～38分であるが、早い児童は7分～10分程度で食べ終わる。児童は各自のペースで食べることができているが、その一方で早く食べ終えた児童が待機する場所やルール等が必要となっている。

また、食べ終わった児童の片付けの音や話し声、叫び声などが発生することから、食事時間の騒音レベルは食事開始時（全員が食事をしている時間帯）よりも、食べ終わった児童のいる後半の時間帯に高くなる（図1）。

今回の調査では、外気温は30℃を超える日があったが、対象施設では、エアコン使用により室温は26℃前後に保たれている。そのため、児童が持参した弁当の保管（昼食時まで児童の個人ロッカー等室内で保管される）についても衛生管理面の問題はないと指導員は考えている。

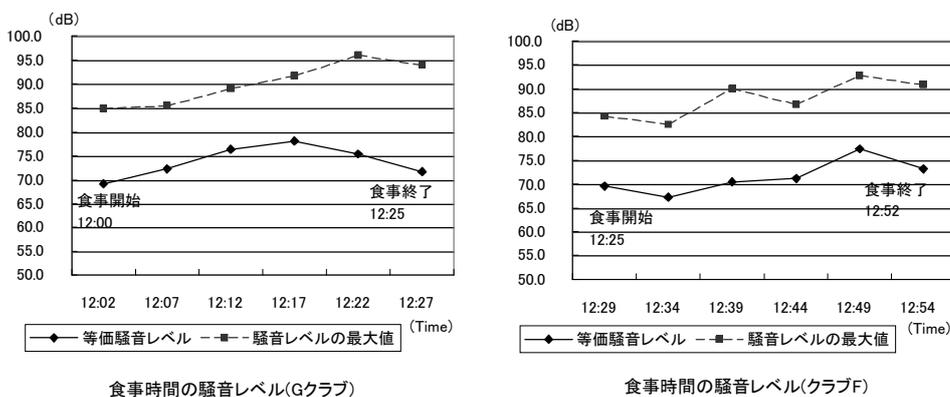


図1 食事時間の騒音レベルの変動

## (2) 放課後児童クラブにおける夏季の休息時間の過ごし方

小学校が夏休みの間、児童は朝から夕方まで長時間を放課後児童クラブで過ごす。夏季は暑さも厳しいため、指導員は、児童の体の疲れをとり、気持ちを落ち着かせることが必要と考え、昼食後に休息の時間を設けている。休息は、活動室で行われ、読書、静かに室内遊びをする、室内を暗くし音楽をかけて横になる、昼寝をする等、過ごし方はクラブによりさまざまである。

以上より、昼食は一斉活動として行われるため、食べる時間の個人差への対応が課題である。休息については、どのクラブでも外気温が高い夏季の午後（昼食後）に休息時間を設けているが、休息時の児童の過ごし方はクラブによって異なる。また、昼食や午後の休息を含むすべての活動を活動室で行うため、遊びから食事、食事から午後の休息など、次の活動への移行のために机を移動させる等の準備・片付けが必要となっている。昼食および休息のこのような活動特性を考慮した空間構成が必要である。

## 5. 今後の予想される成果

本研究の成果は、放課後児童クラブを放課後や長期休業中の生活の場としている児童の健全育成を図ることにつながる。また、放課後児童クラブの生活環境を質的に向上させることにより、保護者が安心して児童を預けられる施設となり、子育てと仕事を両立できる男女共同参画社会の実現に貢献できると考える。

## 6. 主な学会発表及び論文等

本研究の平成 24 年度の研究成果は、以下の学会で発表する予定である。

日本家政学会第 65 回大会（2013 年 5 月 19 日発表予定）

「放課後児童クラブの生活環境整備に関する研究 昼食時の食事環境」

○本報告書は、本学ホームページを通じて学内外に公開いたします。

○本経費により作成された成果物や資料等については、必ず全て添付願います。

○研究テーマが 2 ヶ年計画の場合は、本報告書を平成 25 年度審査会の判断材料の一つといたします。